

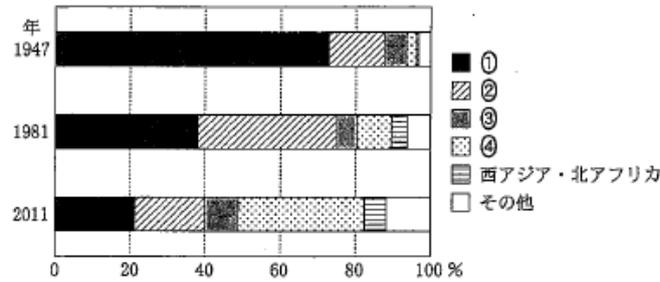
模試と同傾向の出題 ～ベネッセ・駿台模試より～

地理 A

センター試験・第3問 問4

問4 次の図3は、オーストラリアにおける外国生まれの居住者の出生地別割合の変化を示したものであり、①～④はアジア*、イギリス・アイルランド、その他のヨーロッパ、ニュージーランドのいずれかである。アジアに該当するものを、図3中の①～④のうちから一つ選べ。 19

*西アジアを除く。

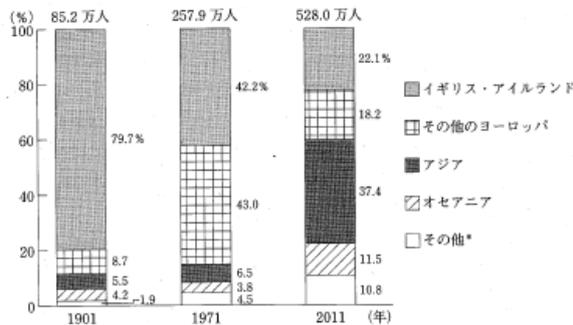


The Australian Population Research Institute の資料により作成。

図 3

第1回ベネッセ・駿台マーク模試・第3問 問7

問7 次の図5は、オーストラリアにおける外国生まれの人口と出生国・地域別割合の推移を示したものである。図5について述べた下の①～④の文のうちから、下線部が適当でないものを一つ選べ。 21



*出生国・地域の不明者を含まない。
Australian Bureau of Statistics により作成。

図 5

- ① オーストラリアはかつてイギリスの植民地であったため、1901年の外国生まれの人口の大部分はイギリス・アイルランドの出身者が占めていた。
- ② 1901～1971年にはアジア出身者などの移住が制限された一方で、その他のヨーロッパの出身者数は著しく増加した。
- ③ 白豪主義政策が廃止された影響で、1971～2011年にイギリス・アイルランドを含むヨーロッパの出身者数は半減した。
- ④ 労働力不足などを背景に、1970年代より多文化主義政策が推進されるとともに、アジアやオセアニアの出身者の割合が大きく上昇した。

今回のセンター試験の地理 A 第3問問4では、オーストラリアにおける外国生まれの居住者の出生地別割合の変化を示すグラフから各地域を判別することが求められた。解答に際しては、経年変化に着目し多文化主義政策の影響で増加傾向にあるのがアジアであることを想起できるかがポイントであった。白豪主義から多文化主義への転換について、これが具体的にどのような政策転換なのか、背景や影響の経年変化も含めて整理しておきたい。

第1回ベネッセ・駿台マーク模試の第3問問7でも同様にオーストラリアにおける外国生まれの人口と出生国・地域別割合の推移とその背景を扱った。ここでも白豪主義から多文化主義への政策転換がもたらした影響をもとに、ヨーロッパ出身者とアジア出身者の相対的な変化と背景を考えさせている。加えて、実数と割合の違いについても考えさせ、地理的な技能も測れる出題としている。

いずれの設問もデータ上の経年変化をとらえ、その変化の背景（多文化主義政策）を考察する力を求めており、授業や教科書で学んだ内容を関連付けて考える必要がある。基本事項の定着を促し、習得内容を有機的につないでより深く考える力を育みたい。